

## 2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 18 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	計画本委員会	主 査 名：源 愛日児 就任年月：2004 年 4 月 委員長名：布野修司 主 査 名：
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	木造建築構法に関する構法計画上の下記研究課題を推進する。 1) 木造建築における新しい技術や構法開発の情報収集 2) 日本の木造軸組建築の構法史に関する研究 3) 木構造の研究者との連携と、研究の到達点に関する情報交換 4) 在来および伝統木造構法の性能の再評価と性能向上のための技術 5) アジア各地の木造建築構法に関する体系的な情報収集	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(2008 年度に向けて) 主査 源愛日児(武蔵野美術大学) 幹事 福濱嘉宏(福濱嘉宏建築事務所) 大橋好光(武蔵工業大学) 河合直人(独立行政法人建築研究所) 木村勉(長岡造形大学) 栗田紀之(きがまえ研究室一級建築士事務所) 黒坂貴裕(奈良文化財研究所) 黒田泰介(関東学院大学) 後藤治(工学院大学) 藤田香織(東京大学) 堀江亨(日本大学) 前川秀幸(職業能力開発総合大学校) 松留慎一郎(職業能力開発総合大学校) 山畑信博(東北芸術工科大学) 吉田倬郎(工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	伝統木造構法WG：日本の伝統的木造構法の木造架構の変遷を調査、解明しようとする意図を持ちつつ、そのための基礎的なデータベースの作成を目的としている。	
2007 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. なし
講習会	1. なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. [研究会] 中村琢己「木造住宅のライフサイクルに関する歴史的研究：近世史料にみる資源保全型の建築活動」(同氏博士論文、日本学術振興会特別研究員) 2. [研究会] 後藤治委員「英・独・仏、歴史的木密市街地の安全対策」 3. [研究会] 源愛日児委員「幕末、明治前半の洋風建築における軸組技術」
大会研究集会	1. なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	研究会 1 は建築史分野からの発表で、目的 2,3 に対応し、西欧の「木密」を論じた研究会 2 とともに目的 1,4 に示唆的。研究会 3 は在来木造構法の成立過程を論じ目的 2,4 に関連する。いずれも各目的に対し基礎的達成。目的 5 は未達成。WG では、指物を用いた伝統軸組の構造評価に向けた研究のフレームを議論した。
委員会活動の問題点・課題	ここ数年、木造建築構法の基層にある、用材の構法的活用の問題を先史から近世まで話題に取上げており、それを何らかの形にまとめることは課題であろう。伝統木造構法WGの成果の公表も課題である。木造構法開発に関わる研究会を増やすべきであろう。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。